

特集

小中一貫教育

瀬戸市の

本市では、市内の公立小中学校において小中一貫教育を推進しています。本号から毎月15日号で、7つの中学校ブロックでの取り組みをご紹介します。



※本市の小中一貫教育は、義務教育9年間を通して子どもたちを学校・家庭・地域が連携、協働して支えていくものです。市内すべての学校において個々に応じたきめ細やかな指導のもと、子どもたちの成長を見守ります。

第1回

にじの丘学園

小中一貫校



ともに学ぶ小学生と中学生



にじの丘学園は1階に小学1～4年生、2階に5～9年生(小学5年生～中学3年生)の教室があります。委員会や清掃活動、通学班会などで、小学生と中学生がともに活動しやすい環境が整っています。

上の写真は1年生が生活科の授業で学校探検をした際に撮られたものです。自分たちで作った名刺を9年生に渡しています。はじめはどう接したらよいのか戸惑う9年生でした。しかし、次第に腰を落として目を合わせ、一生懸命話をする1年生の言葉を丁寧にうなずきながら聞く姿が見られました。

上級生は思いやりの心を育み、下級生は上級生を手本に学ぶ、そんな学びがあちらこちらで見られることが本校の特徴の一つです。



今年度、にじの丘学園は小中一貫校として開校しました。小学生(1～6年生)と中学生(7～9年生)が同じ校舎で学校生活を送っています。小中一貫校ならではの場面がたくさんあります。その一部をご紹介します。



小学校と中学校の先生によるチーム・ティーチング

子どもたちだけでなく、先生も同じ校舎にいます。そのため、小学校と中学校の先生がチームを組み、2人で授業を行う時間があります。

小学校の先生からは基礎学力の定着のための丁寧な指導、中学校の先生からは先を見据えた指導が行われています。小学校から中学校への学びを滑らかに接続していくことで、9年間の学習環境が安定します。また、授業を通して先生たちの情報交換も促され、子どもたちの理解を深める上でも大きな役割を果たしています。



わたしたちのお気に入りの場所

本校の自慢の場所として、大階段が3か所あります。図書スペース横に併設されている大階段には、休み時間になると子どもたちが集まり、時間を忘れて本を読みふける子や友達とのおしゃべりを楽しむ子、上級生が下級生に読み聞かせする姿も見られます。その他、音楽部の練習や発表の舞台になるなど、子どもたちのさまざまな活動の場となっています。



登下校を支えてくださる保護者や地域の方々

本校は5つの小学校と2つの中学校が統合され、校区がとても広くなりました。登下校の場面で活躍して下さるのが保護者や地域の方々です。

転んだ児童の荷物を持って、学校まで送ってくださったことがありました。当番日を決めて、登下校を見守ってくださる保護者や地域の方もいます。通学途中のトイレやお茶休憩のため、場所を貸して下さる企業もあります。多くの支えがあって、子どもたちは安心して本校に通っています。登下校は保護者や地域の力の大きさを感じる一場面です。

